

# 令和元年度(2019年度)南湖南部および瀬田川における

## チャネルキャットフィッシュの生息状況

石崎大介・田口貴史・根本守仁

### 1. 目的

近年、県内において特定外来生物チャネルキャットフィッシュの確認数が増加し、洗堰上流の瀬田川や琵琶湖南湖においても生息が確認されている。琵琶湖への拡散を防止して未然に漁業被害を防ぐためには、瀬田川とその周辺における生息状況を把握し、適切な駆除を行う必要がある。

### 2. 方法

調査は瀬田川洗堰上流から琵琶湖南湖の近江大橋付近にかけての水域を下流から St. 0～8 の 9 区画にわけて実施した。2019 年 4 月 11 日から 12 月 5 日までの期間に 14 回の調査を実施した。調査は幹縄約 500m に 60 本の枝針（ハリス：ナイロン 7 号、針：ムツ針 11 号ないし 14 号）を備えた延縄を各地点に設置し、翌日引き上げた。エサは冷凍のアユを用いた。なお、St. 0 は 9 月 17 日より設定し、6 回調査を実施した。また、St. 6、7 は水草の繁茂により 9 月 5 日までの 8 回の調査に留まった。

### 3. 結果

本調査での採捕尾数は 40 個体であった。そのうちの 90%にあたる 36 個体が St. 0～2 で採捕された（図 1）。これらの地点は瀬田川洗堰から京滋バイパスまでの区間に相当する。この傾向は昨年度と同様であった。洗堰上流の瀬田川ではチャネルキャットフィッシュはこの区間に集中して生息していることが考えられる。また今年度は近江大橋より北の南湖の St. 8 でも 3 個体が採捕された。そのほかの地点での採捕は St. 5 の 1 個体であった。St. 0～2 以外の地点での採捕は洗堰の放流量

これらの結果の一部を 2019 年度日本魚類学会年会で発表した。

増加後が多く、洗堰直上に生息している個体が出水に合わせて上流へ移動することも予想される。また、洗堰上流で繁殖したと考えられる幼魚も多数採捕された（図 2）。これらのことから、本種の拡散防止には繁殖期や出水期である 6 月以前に、集中的に生息している洗堰直上の水域で徹底的に駆除する必要がある。また今後、生息の中心が上流に移動していく可能性もあることから、継続的な監視が必要である。

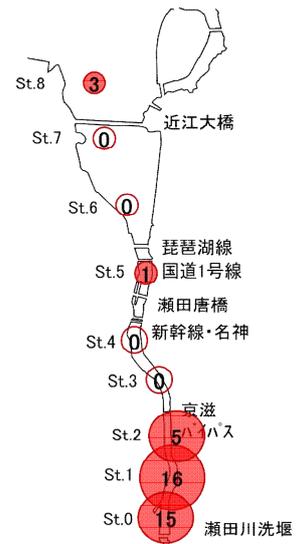


図 1. 延縄調査各地点における採捕個体数

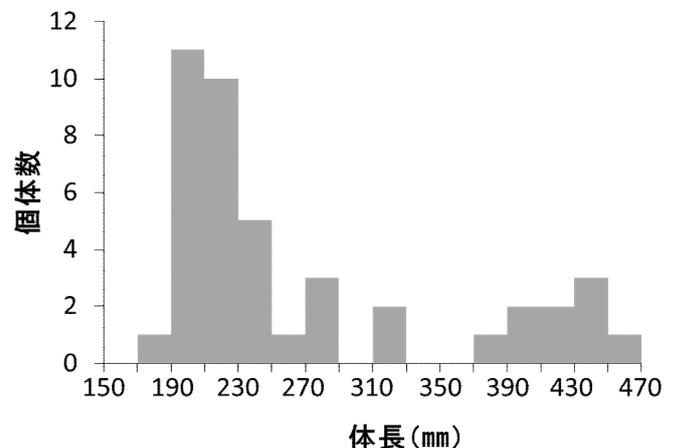


図 2. 延縄調査で採捕された個体の体長組成